

創業の歴史を辿って

旭川支店飼料課

吉田 広志

■はじめに

当社は創立113年を迎え、長い歴史を持つ企業として真に北海道に貢献できる企業でありたい、という創業時の理念とともに歩んできました。しかし、その長い歴史の礎を築いた創業者のお墓については親族の一部が知る程度で、社内ではほとんど知られていませんでした。

今回、歴史を振り返る機会の中で、創業者山内成太郎氏のお墓を探す事となりました。

■当社の黎明期を振り返る

当社の創業地がなぜ旭川なのか。そもそも「丹波屋」の社名の由来は？という疑問を抱いている若い方もいると思いますので、ここで当社の黎明期の歴史について振り返ってみたいと思います。

より詳しく知りたい方は丹波屋百年史、丹波屋社史等を読み込んでください。

創業者山内成太郎は1862（文久2）年京都府京丹波町保井谷の生まれで、家業は酒造業でした。

キリスト教に入信後、牧畜業に転身。村長なども務めておりましたが、尊敬する牧師の影響や開拓に向かう仲間の信者を追い、1902（明治35）年に旭川に移住しました。

当時の旭川は月寒から移転間もない、北鎮部隊と呼ばれる大日本帝国第七師団を抱え、日本屈指の軍都として急成長をしている最中でした。

山内成太郎はまず味噌・醤油の醸造業を営み、順調に経営拡大をしたのち、十勝国新得に500haの土地を取得して丹波屋牧場を開設し、酪農を試みたりしました。

1904年には日露戦争が勃発し、第七師団も旅順攻略戦、奉天会戦の参加がありました。屯田兵の出征で耕作放棄地化した上川郡比布村にあった農地470haを引き受け、山内は農場経営に打ち込みました。この頃には味噌・醤油醸造業も、新得の牧場も手放し、比布の農場に専念していた様です。

そこに1913（大正2）年の冷害と8月暴風雨、9月早霜などで全道でも米の収

穫が平年の 5%程度に留まったという大凶作が襲い掛かりました。

山内成太郎は町の盛衰は師団ではなく農村の繁栄にあると悟り、同年 10 月、個人で丹波屋商会を創設し肥料製造の先駆であった多木肥料所と特約店契約。第一歩を踏み出しました。これが当社の創業となります。

これはホクレン農業協同組合連合会の前身である保証責任北海道信用購買販売組合联合会（北聯）設立の 6 年前になります。道内の肥料販売としては最古参にあたります。

その後、個人経営だった丹波屋商会は後の当社の系譜において重要な佐野家と姻戚関係が結ばれた事もあり、1917(大正 6)年に合資会社となりました。のち、佐野家と血縁関係の深い河路家も資本参加しさらに業容を拡大していきました。

この時代の北海道の商都は輸出入物資が集散する小樽でした。1918(大正 7)年に丹波屋商会も豆粕の粉碎、魚肥の製造に好地であった小樽に支店を進出しました。

合資会社丹波屋商会はこの後、初代代表社員佐野啓次郎の 35 歳での急逝がきっかけで小樽と旭川で経営分離する事になり、旭川の丹波屋商会は第一次世界大戦後の反動による不況に飲み込まれ、最終的には解散となりました。

残った小樽丹波屋商会が創業の地、旭川に出張所を開設するなど道内商圈広く進出をし、1927(昭和 2)年に道内初の飼料卸売も手掛け、太平洋戦争の物資統制等の混乱期も乗り切り、今日の株式会社丹波屋に至る本流となりました。

■創業者のお墓探しに

幸田会長が事前にご親族の方に聞き取りを行いました。旭川市神居町の小高い丘にある神居墓地の一角であるという事までは判明したものの、墓地の面積は約 18ha、墓石は 2 万柱弱にも及ぶため、実際のお墓の搜索は困難を伴うであろうと予想されました。

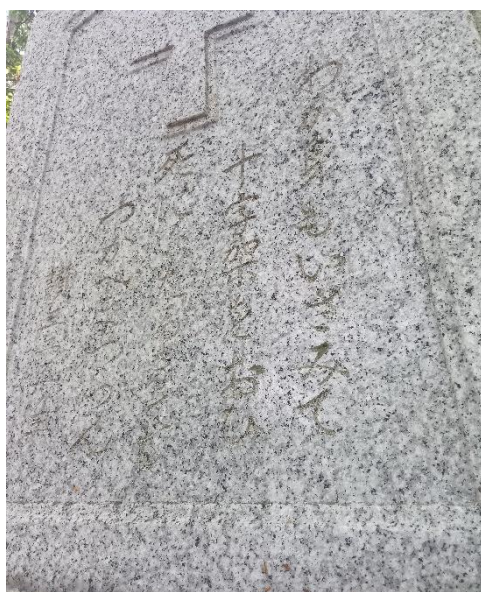
とある土曜日の午前、幸田会長と三浦支店長と私の 3 人の搜索隊は、事前にある程度目星をつけたエリアを、「創業者がキリスト教信者で、墓石には十字架が刻まれているはず」というヒントを頼りに、広大な墓地を古い墓石を一つ一つ確認しながら歩き回りました。しかしながら、それらしいものはなかなか見つかりませんでした。

近くにあった浄土宗寺院の住職にも伺い、キリスト教関係のお墓の多い区域も探しましたがそれでも発見に至りませんでした。

各々分かれて探していた三人でしたが、一度合流しようと半ば諦めかけていたところ、寺院の裏山にある森の中に古そうな墓石が散在しているのが目に留まりました。もしや、と思い向かってみると、木々に囲まれた静かな場所にひっそりと佇む古い墓石の中に十字架が彫られたものを見つけました。そして、そこに刻まれた文字を確認したところ、それが探していた創業者のお墓であることが分かりました。



諦めかけた時に偶然にも見つけることができ、その驚きと安堵の中で、墓石に刻まれている讃美歌「主にのみ十字架を」の1フレーズを読み解ることができました。



113年の長い間、創業者が抱いた志が受け継がれ今日の当社があります。
その墓前に立った時、歴史の重みを強く感じました。

私たちはなにかと日々の業務に追われがちですが、会社の歩みとは創業者をはじめとする多くの先人たちの努力の積み重ねによって築かれたものです。
今回の発見は、その原点を見つめ直す貴重な機会となりました。
これからも創業者の志を胸に刻み、次の時代へと歴史をつないでいきたいと思っています。

